

小樽の歴史的建造物を巡ろう

原風景の祝津から近代建築の縮図まで

歴史的建造物の街、小樽

漁場の原風景をとどめる祝津、アメリカの技術を導入した手宮の鉄道施設、防波堤と運河建設による製缶工場と石造り倉庫、奥沢水源地と醸造場、建築界のトップランナーが設計した色内の建物を紹介した。取り上げたそれぞれの地区の建造物は、明治以降の産業の進展にともなって造られ、今にその歴史を伝えている。それらは北海道の漁業、鉄道、港湾、食品製造、倉庫、土木、建築を代表し、1995年に北海道教育委員会が文化庁の依頼で調査した報告書（『北海道の近代化遺産-近代化遺産総合調査報告書-』）に掲載されたものである。いずれも建設当時に先端を行った痕跡をとどめている。その査証として、手宮機関車庫と周辺の鉄道施設は、報告書が元になって国の重要文化財に指定されている。

小樽の特異な魅力は、一級の遺産を織り成してまちが構成されている点にある。そこで、遺産を点から線へ連結させ、線から面へ拡げることが、小樽の魅力を一層増大させることになるであろう。